



ありがとう、ロータリアン！ ⑰

障害のある仲間とともに生きる



NPO法人織の音アート・福祉協会副理事長

私 ボクハン
金 福漢 さん

出身：韓国

奨学期間：1995 - 97

学校名：埼玉大学大学院

世話クラブ：大宮北RC

ポリオによるまひを発症して

私は3歳の時に麻疹にかかり、生死の境をさまよいました。その直後、さらにポリオを発症したため、松葉づえを使って歩けるようになったのは5歳のころでした。つらい経験でしたが、この時すでに、将来、ポリオ撲滅を目指すロータリーと出会うことが約束されていたのかもしれない。

私は父の仕事の関係で、何度も小学校を転校しました。行く先々でまひした左足をバカにされ、けんかを繰り返し、心がすさんでいく中で、生涯の友人、イム君に出会いました。イム君は毎朝、私の重いかばんを持って登校してくれました。彼の影響でキリスト教と出会い、いつも人から声をかけられるだけだった私が、自分からも声をかけられるようになりました。教会の日曜学校に通ったり奉仕活動をしたり、イム君と共に過ごした日々は、今の自分を支える経験となっています。

高校生の時に父が事業に失敗。大学進学をあきらめ、就職することにしました。しかし、どの会社も障害者の私を門前払いしました。社会に出て受けた、初めての“差別”でした。

日本人との出会い

韓国では障害者福祉制度や自立支援対策が日本ほど進んでおらず、市民の多くがそのことに関心も持っていません。私はこの現状を少しでも変えたいと思い、ボランティア活動に没頭していきました。

そうした中で25歳の時、「愛の友・UREE」という団体が主催するキャンプで初めて日本人に出会いました。私は、反日教育を受けた世代です。日本人と聞いてすぐに思い浮かぶ姿は“鬼”でした。しかし、実際に会った彼らは、鬼ではありません。私たちは夢中で砂浜に漢字を書き合い、会話をしました。人と人が交流する大切さ、そして教育の影響力を痛感した出来事でした。

その後、韓国ユネスコ協会の推薦で1年間、山形県朝日町の保育園でボランティアをし、帰国後は障害者への理解を社会に深めてもらうイベント「アジアわたぼうし音楽祭・ソウル大会」の実行委員になりました。この音楽祭は日本発祥であり、それを韓国で開催するという、かつてない難しい交渉を強いられましたが、日韓民間交流への熱意と“キムチパワー”で実現させました。

障害者とともに生きる

1994年、31歳で再び来日し、翌年、埼玉大学大学院修士課程に進学、障害児教育を専攻しました。母国からの援助がない私は、米山記念奨学金にどれほど助けられたかわかりません。そして、大宮北ロータリークラブ(RC)の皆さんとの出会いはお金に勝るものでした。

その後は障害者作業所の指導員をしながら、同大学院博士課程で共生社会学などの勉強を続けました。宮原西



金さん(左端)の運営する施設の仲間たちと一緒に

今月号からは、米山学友、現役の米山奨学生から寄せられた体験談をもとに、ロータリアンとの“絆”を紹介しているシリーズ「ありがとう、ロータリアン！」を引き続きお届けします。今年度最初に登場していただくのは、埼玉県で知的障害者福祉施設を運営する米山学友、金福漢^{キムボクハン}さん。ポリオによるまひを^{かな}発症した彼は、生涯の友、日本人、ロータリアンとの出会いを通じて生きる道を見つけていきます。そんな金さんが叶えたい夢とは……。

口商工会（現・さいたま北商工協同組合）会長だった、大宮北R Cの須賀隆夫さんから「一緒に宮原町を変えていかないか」と声を掛けられたのは2000年のこと。子どもも高齢者も障害者も健常者も、皆でこの町を盛り上げよう、そんな熱意を持った人が集まって実現した「ふれあいフェスタ in 宮原」は、今では町の一大イベントです。

これに関わった地元の方々から「障害者が通える町にしよう」との声が上がり、04年、私は志を同じくする仲間とともに、心身障害者地域デイケア施設「織の音工房」を開設しました。現在はNPO法人となり、生活介護や就労継続支援、ケアホームの運営、特別支援学校の生徒の職場体験などを行っています。24時間気の休まることのない日々ですが、仲間である障害者が一生を過ごすことのできる環境をつくりたいと思っています。

夢の実現に向かって

私たちの施設は、障害者の自立と社会への参加が基本理念です。とはいえ、知的障害者の自立は、彼らが賃金を得る技術を身につけ、それを支援する人がいて初めて成り立ちます。支援者の輪が今後広がることを期待しますが、大宮北R Cの皆さんが物心両面で支えてくださっていることに、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

施設の一つ「織の音工房」では繭^{まゆ}から絹糸を取り、各

自が考えたデザインと配色で、手織りの作品を作っています。私の夢は、ファッションの本場・パリで彼ら、彼女らの作品展を開くことです。これを実現することが、障害者の仲間とともに歩んできた、私の最後の仕事だと心に決めています。できれば、ロータリアンの皆さんと一緒に、この夢を見てみたい。私はこれからも走り続けます。

大宮北R C会長
須賀隆夫氏から一言



金さんは、正直でまじめでユーモアがある人です。相手が誰であろうと親身になって接する姿勢に、施設利用者や保護者からの信頼も厚いようです。金さんが来てから、大宮北R Cも、この町も変わりました。変化の中心にはいつも彼がいます。今、クラブでは月に1回、金さんの作業所で作っているおいしいパンを、例会の食事に使っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

モンゴルの米山学友が、日本の外務大臣表彰を受賞

モンゴル在住の米山学友、ジャンチブ・ガルバドラッハさん（1998 - 99 / 山形北R C / 第3450地区・フレールC会員）が、日本とモンゴルとの相互理解の促進に貢献した功績で、平成25年度外務大臣表彰を受賞しました。ジャンチブさんは母国に日本式高校を開校し、大勢の留学生を日本に送り出しています。「私は両国が今後、もっと仲良くしていけると信じています。そのために大きな役割を果たすのが若者です。わが校では250人以上の卒業生が日本に留学し、多くの日本人学生も実習に訪れます。今回の表彰は、このような生きた橋を懸ける交流を高く評価してくださった証しと、大変うれしく思います」と彼は語っています。



今年3月、ジャンチブさん(左)の高校を訪問した安倍首相夫人を、生徒とともに歓迎